

歴史戦



「完全な創作」世界に増殖

1面から続く

「千田夏光という作家に父が慰安婦制度の考案者のように嘘を書かれ、大変な目に遭った。平成3年ごろから、私の診察室にまで内外からいろんな人が押しかけ『民族のうらみをはらす』とか『謝れ』などといわれ罪人扱いされま

こう振り返るのは福岡市在住の産婦人科医、天児都(79)写真した。天児によると、千田の著書『従軍慰安婦』には、戦時動員労働員制度の女子挺身隊と慰安婦を同一視する



天児の父でやぶ問題記述があるという。

はり産婦人科医だった麻生徹は戦時中、陸軍軍医少尉として中国各地を転々とした。昭和13年1月に上海で慰安婦約100人の検診をした経験から、14年6月に「花柳病(性病)の積極的予防法」として日本人慰安婦より若年者が多かったことを挙げていた。だが、軍の命令で行った検診結果の一例を書いたのだが、千田はそれを飛躍させてこう記述した。

麻生徹氏の論文を引用するなど利用した著作物

『兵隊たちの陸軍史』	昭和44年	伊藤桂一
『従軍慰安婦』	同48年	千田夏光
『天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦』	同51年	金一勉
『朝鮮人慰安婦と日本人』	同52年	吉田清治
『一人の昭和史』10巻	同52年	毎日新聞社
『沖縄のハルモニ』	同54年	山谷哲夫
『昭和二万日の全記録』5	平成元年	講談社
『十五年戦争重要文獻シリーズ』①	同2年	不二出版

「レポートの結果として軍の目は当然のようにそこへ向けられていく。それは同時に、朝鮮人女性の怖るべき恐怖のはじまりでもあった。朝鮮半島が若くて健康、つまり理想的慰安婦の草刈場として、認識されていくことになった」

千田は別のページにも同様

「朝鮮人慰安婦供給源の基礎」

から結論ありきで書いている。完全にフィクション(創作)だ。こう憤った天児が千田に抗議し、訂正を申し入れたところ、平成8年4月にこんな謝罪の手紙が届いた。

「朝鮮人女性の比率が高くなったのは麻生論文のためではない」ということで、ご指摘の通り論文を発表されたのが年のかわってからであったことも明確です。私の記述が誤っているとすれば罪は私にありま

「千田は自分の都合のいいところだけ拾い読みし、初め

「千田は自分の都合のいいところだけ拾い読みし、初め

謝罪するも訂正せず

(敬称略)

へ基礎をおくのに手助けしにとどまらず、「千田が事実として書いた嘘が増殖して安所の主唱者」と記したり、おおよそデタラメな記述が多か

「性奴隷」と認定した1996(平成8)年2月の「クマラスワミ報告書」には、オー

「慰安婦」が引用されているが、天児によると「索引には参考文献がたくさん並んでいて立派な学術書のような

「慰安婦」が引用されているが、天児によると「索引には参考文献がたくさん並んでいて立派な学術書のような

吉田と千田という2人の作家が感情的に書きつづった

「それは違う」という異議をかき消し、事実として世界に広まった。それには、検証も確認もせずに彼らを持ち上げ紹介してきたメディアが果たした役割も大きい。